

## ■平成29年度 第2回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 平成29年度 第2回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 平成29年8月1日(火) 10時00分から12時00分

[開催場所] 大和市文化創造拠点シリウス 6階  
大和市生涯学習センター 601講習室

[出席委員] 9名(欠席:3名)

[出席]: 饗庭 伸/杉崎 和久/宇津木 朋子/江村 郁子/河村 奨/須賀 良二/  
仲村 邦弘/星野 澄佳/山田 俊明

[欠席]: 黒石 いずみ/菅 孝能/松本 久美

[事務局] 7名(街づくり計画部長、街づくり推進課長、街づくり推進担当3名、大和駅周辺市街地整備支援担当2名)

[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 tel.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

---

### I. 会議次第

1. 開会

2. 報告

大和駅東側第4地区第1種市街地再開事業の都市再生整備計画の事後評価について

3. 議題

(1)平成29年度 第20回 大和市街づくり賞について

(2)今後の大和市の街づくりについて<第2回>

7. その他

8. 閉会

### II. 内容

---

1. 開会

2. 報告

大和駅東側第4地区第1種市街地再開事業の都市再生整備計画の事後評価について

質疑応答 (○…委員 ▼…市)

---

▼(大和駅東側第4地区第1種市街地再開事業について社会資本総合整備交付金の内容も含め説明した。)

○評価に関しては特に、このような評価をする、という設定をするわけではなく、これから新しい評価内容を考えるということか。また、このような評価は大まかに定性的なものと同定量的なものに分かれるが、この評価はどうか。

▼今回の社会資本総合整備交付金の中で、都市再生計画については三か年の事業費の計画ということであったので、計画段階からこういったものを指標にしようということは定めている。図書の貸し出し冊数や施設の来場者数などの数字を従前と比較をすることは前から考えていた。プロムナードの歩行者数についても、交通量調査を以前から調査し準備はしてきているので、できるだけ定量的な評価にしていければと思っている。

○現状で使えるような指標はどのようなものがあるのか。

▼指標としては4つあり、図書の貸し出し冊数、来場者数、プロムナードの歩行者数、芸術文化活動が盛んに行われていると思う市民の割合である。これはアンケート等になるので、どこまでできるかは分からないが、同じやり方で数字を見てなるべくやっていきたい。まだ建ててから間もないので、どこまで変化があるかは数字を見てみないと分からない。

○周辺の賃貸人口の増加など、関連指標は作っているのか。

▼今のところ別の関連指標は作っていない。基本的に元々の目標は、人の賑わいや人通りがあるのかということだ。

○今の3つの指標だけだと、考えて当然なものである気がして、賑わいの指標のとり方については議論の余地がある気がするが、我々が意見を言う余地はないと思う。どういったことをこの会議に期待しているのかがよく分からない。

▼指標だけでなく、定性的なものも必要になる。行政が作ったものは市民の方から見ると数字だけのわかりにくいものになりがちなので、評価シートには定量的な項目以外に意見を載せることができる欄もある。是非違った視点で、様々な意見をいただきたい。高座渋谷の区画整理の時も様々な意見をいただいたので、今回もお願いしたい。

○平成6年に研究会が設立されて都市計画決定がなされていく過程で、どのような苦労があり、どのような工夫をしてきたのかという点を教えてほしい。

▼途中事業を大きく変えたが、もともと土地活用がうまくなされていない地域であり、大和駅の他のエリアと比べると、従前従後の差が大きく、事業をする意味の大きいエリアだった。そうは言っても実際事業化する中で、それだけの事業費を保留床で稼いでいかなければならなかった。当初の計画では、住宅を上に乗せるような計画案だった。当時、デベロッパーは景気が悪いとは言っても、住宅であればデベロッパーはまだ付く時代だった。住宅を売却してそれを事業費にするということができたが、リーマンショックなど様々な社会・経済状況の中で住宅すら処分が難しくなった時期があった。計画が頓挫しかけたのはこの時期である。では、どうするのかと考えた際、市民に多く使ってもらえるような施設を大きく入れていこうと政策的な判断をして、大和市が保留床の大半を取得していくという事業の仕方に変更していった。これは多くの方にご理解いただかなければ成せなかったことであり、それをやりきったというところがこの事業での大きなポイントだと思う。

○確認だが、都市再生整備計画は三年間の話でありそれまで経過は入らないということによいか。

▼そのとおりである。そのため、それ以前の話はなかなか入れにくい部分もある。

○平成26年から平成28年の事業費が90億であり、全体事業費は平成6年からの合計ということで

良いのか。

▼時間的な部分もあるが、当然すべてが補助対象になるわけではない。複合ビルであるため、90億円というのは、公共施設の一部であり、補助金の目的に合致するものである。同じ時期に行われた支出の全部が事業の対象というわけではない。

○総事業費213億円というのは、当初設計変更などを踏まえた事業費か。

▼組合の当初の段階からの費用である。

○90億の内訳はソフトな内訳とハードな内訳があると思うが、今日は再開発全体の話をしていただいたので、三年間で対象となる事業として何があるのかというのはまた11月に議論するということがよいか。

▼実際に評価をいただく中でそれはご説明しようと思っている。おおざっぱに言えば、芸術文化ホールや学習センター、図書館が対象となると思う。それから市街地再開発事業は組合施行でやっているため、組合へ市がお金を渡しているため、その部分も含めて、4つが対象事業である。

○建物の中の色々な設えということか。

▼例えば再開発事業の場合は、共同的な部分が補助対象になりやすい。当然個別にビルが建つよりも、一緒にやった方がよい。そういうものを促進するために、お金を交付するということがある。

前回の推進会議を欠席された、杉崎委員と仲村委員の自己紹介が行われた。

### 3. 議題

#### (1)平成29年度 第20回 大和市街づくり賞について

##### 質疑応答 (○…委員 ▼…市)

▼平成29年度第20回大和市街づくり賞について説明した。

○この賞をもらうと何があるのか。これでは応募の動機として成り立たない気がする。

▼市長から表彰され、盾などの記念品がもらえるが、他には特になし。

○そういうものはきっかけとして大切だ。

○受賞された方は写真などをいただけるのか。応募される方はそうしたものを誇りにされると思う。

▼今までは特に個人の方に写真をお渡ししたりはしていないが、HPや年次報告書には顔写真が入った状態で受賞者の名前が載る。

▼写真撮影に関しては記念であるので、こちらの方でも今一度確認する。

○今の問題提起では、応募した人に対するご褒美があるのかということと、推薦をしたということに対して何かご褒美をぶら下げないとうまくいかないのではないかと思う。応募をしたということはこの賞に関心を持ったということであるから、金銭的なものでなくても何かあった方がよいと思う。

▼確かに今回は自薦・他薦とあるので、他薦したときに推薦者に対しご褒美があった方がよいということだろう。

○今、他の事業で健康ポイントをやっていると思う。あのような、小さいことでもいいから何かポイントなどのようになっているとよい。

▼確かに応募の数が少なくて困っているため、なにかお渡しするとしても困ることはないと思う。

健康ポイントの場合はお米がもらえて、全員ではなく抽選である。もちろん色々なグッズはあるし、100件も200件も応募が来るとも思えないので、金額の多寡は別にして、何か用意できれば良いと思っている。

- それをこのチラシに書くかどうかだ。このチラシを見る限りは、応募した際何をしてもらえるかがさっぱり分からないし、誰も応募しないのではないかと思う。
- 表彰式の日程が決まっているのだから、ポスターに内容を入れても良いと思う。何がもらえるのかや、受賞の写真をお送りしますとかなどは書いても良いのではないかと思う。何か少しでもご褒美的なものがあって良いと思う。
- ここに書かれている絵を見ると、ハード面の街づくりを強く想像する。ソフト的な活動も、ゆくゆくは街のハード面の整備につながるということも伝わるようなイラストにすると良いのではないかと思った。
- 街づくり賞はかなり長い期間実施されている。今まで表彰されたものが載っているものがあるが、大和市の景観づくりではこれらの事例がカギになっていると思う。こういったものが景観づくりに良いものだとして出ているのである。街づくり賞というのは、こういった条例などの検証の機会なのではないかと思う。検証の機会であるのだから、こういった条例は十分なのかどうかを検証するというような機会にできないものかと思う。ただ、こうした内容をすべて募集に出すとまた難しくなってしまうので、それを少し漫画化したような形で出すなどして、こうしたポスターなどをもう少し充実させて、景観づくりに良い事例はこういうものだという説明をかみ砕いて、絵にしたりするなどして応募を増やす努力をしないといけない。この条例の反映がきちんとされているのか、つながりを見つけていくような視点があると良い。今回は難しいかもしれないが、そういった条例やルールとのつながりを考えなければならない。
- デザイナーさんに任す前の段階のものであればありだが、これでは厳しい。告知方法のどこにも SNS による手段がなかったが、このポスターを見た人が、他の人にシェアしたいと思わないと思う。その理由は2つあり、これを見ても他の人にちょっとシェアしたいなというポイントがない。また、この賞は街づくり賞であるので、少なからず美的なものであるはず。ということはこのポスターなどで、応募の段階からこちらのハイセンス感を出さないと人は寄ってこない。ほんの少しでいいからイラストレーターさんにお金をかけるより、デザイナーさんや、イラストを担当している人にもう少ししっかりお願いをしてもらいたい。
- 3点あるが、まず第1点として、活動などであれば、申し込みが個人でなく団体で出す場合があると思う。それがほしい。次に第2点として、3月10日には、展示はなく表彰だけか。確かに展示は手間がかかるが、それでも考えてみてほしい。そして第3点として、営業の仕方も考えなくてはいけない。自治連などの集まりに入っていけると良い。今はどちらかという受け身な感じ。チラシ配布などを機会があればやってみるといいと思う。
- 周知方法が、そこまで届くのかと感じた。もう少し踏み込んで対象を病院や学校、施設などへ広げたらどうか。
- もしできれば共催などを付けられないか。そうすれば義務感が非常に強くなると思う。
- 結構自治会の会長さんの競争心をあおるのは良いと思う。うちの自治会からこれが出た、というような感じにする。自治連関係の周知を強化すると、会長さん同士が競いあってよいかもしれない。ちら

っとそういうものが、あなたの街にありますかというキャッチコピーなどを入れるのは良いと思った。

○山田委員の意見とも被るが、条例を知らない市民も多くいると思う。景観をよくするためにこんなことをやっているということをアピールできたら良い。あとはこのポスターの印象は、やはりハード的な面が強く見えてしまう。サポーターの意見を踏まえると、もっとソフト的な面も見せていかなければいけない。見る方の対象が大人だなというところもあり、もっと対象を広くして、幅広く応募をかけられると良い。色々な目線で参加ができると良い。

○今から色々つけられないかもしれないが、ハードな面が強いし、当たり前のことしか書いてない。だが、本当はそうではない。例えば、これまでの街づくり賞に出されたものだと、駅の階段の上から見た駅の姿とか、一点では表せない街の美しさというようなものが、このポスターからは分からない。そこのところがちょっと難しいのではないかと思う。

○評価軸が、評価する対象が美しくなくてはならないのか、それとも人間味のあるものでも良いのか、目標が分かりにくい。例えば環境をよくするためにしていることが結果としてコミュニティをつくって街づくりにつながっていくことも、果たして対象になるのかと考えると、美しくなくてはならないのかと考えてしまう。

目標と告知の仕方、具体的に声掛けする時のキーワードが見えづらい。しかしある程度の方向性は必要なので、事務局で練ってもらいたい、スケジュールとして間に合うのか。

○とにかく賞金などのことを明言できないわけである。3月10日に皆さんが表彰式に来て、自分の活動の発表ができるということや、パーティーをしますというようなことでPRするのが良いかと思う。3月10日の表彰式をどうやって価値付けるのかが大事である。これをやることで誰が得をするのかが分からない。市が助けを求める言い方もある。市民たちは様々なことをやっているのだから、私たちに教えてくださいというようなスタンスの方が、教えてあげようというふうになるかもしれない。大和市は条例を2本位持っていて、それに合う活動を探しているとなると応募しにくいし、自分の活動はそれには合致しないような気もしてしまう。

応募数はあまり期待できないので、賞を理由にして街づくりを広げるために市で地域に入っていった積極的に掘り起こすことをしてもらったらよいと思う。

○キャッチコピーはあなたの大和の街のここが好きを教えてください、となっていて数年前の写真コンクールと同じような感じだが、今回目指しているものはそれだけではないと思うので、あなたの街の活動を教えてくださいのなどの方が良いと思う。今のままだと、好きな場所の写真を撮って送ってしまう。シリアスの写真がたくさん来ても困る。もう少し大きい範囲でキャッチコピーを考えた方が良い。

また、審査をしっかりとできるのかがとても気になった。情報が少ない。チラシの下半分、応募理由が4行で審査するのは難しい。

▼今までは応募いただいた後に、こちらで写真を撮って、プレゼンのようにして紹介しながら専門家の方々に審査していただいていた。いつもは事前に取材をして、スライドショーをしていたが、今回はソフトな面も入っているのでどうするか考えなければならない。

ソフト面は、活動している場面が写真にできるのなら、それでプレゼンをして、実際に現地に行ってみて見た方が良ければ見にいけば良いが、常々活動しているのでなければ、活動している時点での視察はできないから、ものによっては実際に見るものとプレゼンするものとに分ければ良いと思う。応募の

段階で写真がなくても、こちらで応募いただいた方に、何かしら活動している記録を集めて推進会議でご報告するかたちにしたい。

○活動部門で、もう少し情報がほしい。

▼活動も、広報の街づくり委員会もあれば清掃活動もあり、清掃活動を事例としてしまうとそういった事例ばかり出てきてしまうので、こちらで事例の性格をどの程度限定してよいのが難しい。今回は一番広く街づくりの活動や事例を募るために、一番誰もが思いつく街づくりの事例をイラストにした。また、応募していただく方の対象も、子供から大人にするため、ポスターの真ん中の人物も子供と大人をあしらった。

○事例と活動は両方視野に入っているのか。活動と事例という書き方もある。活動は単にソフトのものであれば、必ずしも写真の必要はない。だが、事例には実空間の写真がいる。

▼チラシの裏面の一番はじめに、活動と事例を表彰すると書いている。

○事例は大和市役所の人にとっては実空間かもしれないが、事例には活動も含むと解釈する人もいる。二つ実際にあるものと、活動との二種類を表彰するとした方が良い。

▼活動や事例という表現を、街並み空間と地域の取り組み、のようにした方が良いということか。

○空間なのか、街をよくする活動なのかとした方が良い。

○文章が暴れていて、街が漢字だったりひらがなだったり、良好と言ったり快適や美しいと言ったりしているので、これらは統一させた方が良い。

▼意図的に街を漢字とひらがなにしている。街づくり計画部の「街」はハード面的な意味合いがある。そこをしっかりと分けないと、ハード面とソフト面での「街づくり」と「市民活動」の境目がぼやけてしまう。

○そこはむしろ、ぼやけて良いと思うし、ぼやけるべきだと思う。

○現段階では、まず皆さんの意見を集約するべきではないか。

○今の時代、何でもかんでもスマートフォンで写真を撮るようになったことで、写真を撮ることが非常に身近になっている。活動に関しても、写真を撮って説明と一緒に送ってください、というような応募方法が良いのでは、と話を伺っていて思った。スマートフォンで送ってくださいというような手段にすると、もっと気軽に応募できるようになると思う。

○表現の問題もあるが、ソフトな面とハードな面と両方やるのだということを明示的にしてもらった方が良い。応募の仕方としては、写真をつけてもらった方が良いと思う。事前に審査をして、三組くらいが受賞をして、その人たちだけが3月10日の表彰式に来るとするのはもったいない気がする。お金が動くわけではないので、賞はたくさん出しても良いと思う。

▼受賞事例は広報2月1日号でも紹介する。

○非常に期間が空くということか。

▼推進会議で選考していただいたものを市長が決定することとなっているので、3月10日当日に、その場で選ぶというスタイルにするのは制度上厳しい。

▼平成25年度は表彰式の後に座談会形式でイベントを行った。

○表彰式だとやはり表彰された人しか来ない。せっかくだとたくさん応募しているのだから、全員来てもらうような仕掛けにする方が、次の街づくりにつながると思う。

○市長が決めた正式な賞と、その場にいた人が選ぶ賞の二つを選定したらどうか。

▼今日お話しした流れは、単に従来のスケジュールに落としこんだだけのことなので、皆さんの意見を聞いて修正の余地があると思った。授賞式については伸びしろはまだあるが、ポスターはあまりなく、いただいた意見を最大限活かしていきたい。

表彰式は来てもらうことが大変で、かなりお願いをして来ていただいている現実がある。場所も含めて、多くの方に来てもらえるよう工夫したい。まずどれくらいの人が集まるのかによって来ていただく側の準備の仕方も変わってくると思うので、最大限周知をして、どれ位応募があるのかも少し考えながら、表彰式の在り方についてはまだ考える時間もあることなので、いただいたご意見を整理させていただき、次回の推進会議で集まっていたくときにどのような表彰式にするのかを複数案も含めて、ご相談できたらと思う。

○途中が非常に大切であり、応募が9・10月で表彰式は3月では、間があきすぎる。11月に開催する位でないと、間があきすぎてしまう。

参加者だけの賞を決めるなど、表彰の仕方を検討するべきである。

▼広報と表彰式は分けていただいて、表彰の在り方は皆さんのご意見も含め考えていく。広報スケジュールが前提となっているスケジュールなので、市長の表彰式での関わり方など、だいぶ今までのやり方とは変わってくると思うが、何か今年以降、今までと違うやり方でできればやっていきたいと思うので、色々検討していきたい。

▼スケジュールでは、次回は11月を予定しているが、場合によっては、時間的な問題もあり、メール等も含めて、個別にご相談させていただく可能性もある点、ご了承ください。